

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98 TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

https://kosaiji.net/

法座のご案内

一月十五日(金) 午後二時より
 十六日(土) 午前九時半より(午前のみ)

御正忌報恩講 (於 広濟寺広間)

※ コロナ感染予防対策を徹底し行います。
 ご参拝の皆さまにもご協力お願い致します。

今号の法語

部屋も心も
換気よく



今号の内容

- ・仏事のQ&A (くおりんく)
- ・住職コラム
- ・千夏のきときと日記
- ・坊守のつれづれ日記



さて今年もあと数日。皆さん掃除は完璧、新年に向けても準備万端でしょうか？私は時間が止まって欲しい今日この頃。頭を抱えております・・・。

コロナ禍にしてもまだまだ先が見えない状況。「密」に気を付け、特に寒い冬だからこそ換気に関心掛けたいものです。

今号の法語は、「お寺の掲示板大賞二〇二〇」の入賞作です。コロナ禍における心構えを端的に教えてくれています。

閉め切ると危ういのは、「ウイルス」だけでなく、「心」もそうかもしれない。「心」を内に秘めることも大事ですが、外に伝えることもとても大事。閉め切っていると、身も心も疲れ果て、病んでしまいます。

時には思いっきり開けっ放して換気よく！

あ、外に出すときは、人の声に耳を傾ける、外からの換気も忘れずに(笑)

仏事の疑問 Q & A

質問 仏さまにお参りする時は

おりん(磬)を鳴らすの？

仏さまにお参りする時、皆 壺越磬とよばれる、音階の
 さんはどうしておられるで
 しょうか？お仏壇の前やお弔
 いに伺った時など、おりん
 (磬)を前にして「どうしよ
 う？」と悩んだことつてないで
 すか？

浄土真宗の話をいたします
 と、おりん(磬)は何のために
 あるのかと言えば、お勤め
 (読経)する時に鳴らす仏具
 なのです。本格的なものでは、



浄土真宗の話をいたします
 と、おりん(磬)は何のために
 あるのかと言えば、お勤め
 (読経)する時に鳴らす仏具
 なのです。本格的なものでは、

「レ」の音で鳴るものもありま
 す。実はお勤め(読経)は音階
 が決まっているので、おりん
 (磬)の音というのはその意味
 でも大切なものなんです。ね。

一方で、お勤め(読経)せず
 に仏さまの前で合掌礼拝する
 機会も多い私たち。その際に
 は、お勤め(読経)をしないわ
 けですから、もちろんおりん
 (磬)は「鳴らさない」という
 ことになります。

意外って思う方もおられる
 かもしれませんね。おりん
 (磬)は、仏さまにお参りする
 際の合図で、インターホンのよ
 うに勘違いしておられる方も
 少なくないかもしれません。は

必要なのでしょうか・・・。



ちなみに私たちの阿弥陀仏
 さま(亡くなられた方も同じ
 仏さま)は、「いつでもどこでも
 私たちと共におられる仏さ
 ま」といわれます。私が仏さま
 にインターホンするというより
 も、むしろ仏さまの方から私
 たちに「一人ぼっちにはせんぞ、

ちやんと聞いとるか？」とイン
 ターホンが鳴らされ続けている
 のではないでしようか。

おりん(磬)を鳴らす時は、
 仏さまからの呼びかけの音と
 受けとめてもいいですよ。

住職コラム

師走ということでは何かしらバ
 タバタしておりますが、遠く
 越前海岸では水仙が咲き出し、
 わが寺のプランターの水仙は
 早や土の中で準備万端芽をの
 ぞかせており、その上に雪が
 積もるとこれが風除けになっ
 ていいのだそう。それにしても
 暖かい春まで待てばいいのにと
 思う。

なかなか素直に待てない私
 共に春の先駆として案内して
 くれていると思う。

金子みすゞさんの詩で「さび
 しいときに」というのがある。

その中で「私がさびしいときに、
 仏さまはさびしいの。」と語ら
 れている方がおられるという。

ありがとうございます。
 なまんだぶ。



お知らせ

令和二年

除夜の鐘

十二月三十一日(木)

午後十一時四十五分より

令和三年

元旦会

一月一日(金)

午前五時より

御正忌報恩講

一月十五日(金)

午後二時より

十六日(土)

午前九時半より

※両日共にお齋ありません

御講師

砺波組 明覚寺

林 要昭 師

除夜の鐘

12月31日(木)

午後11時45分～0時45分頃

※撞いている間も出入り自由です。
いつでもお越しください。
本堂におられる阿弥陀様にもお参りしましょう。



広濟寺仏教婦人会
毎月第四土曜日

午後七時半より

※一月・二月は休会します

※月参りについて

一月一日・二日・三日の三

日間はお休みさせていただきます(祥月命日は除く)。



編集後記

今号では「坊守つれづれ日記」が久々に復活しました。復活といっても過去に一度、寺報第五号(二〇一〇年五月発行)以来となる二回目の掲載なのですが。

その時の日記内容は、坊守のインド旅行についてでした(ホームページからバックナンバーをダウンロードできます)。

このコロナ禍では海外が本当に遠いところになってしまいました。県外にしても同じ感じで、楽しみをつくるのも一苦勞の時代です。

コロナ禍もいつまで続くかはわかりませんが、どんな状況下であつても、皆がお互いに楽しく生きあえるような社会になればと思います。本当のニューノーマルな生き方のヒントを、仏教は教えてくれるはずです。